

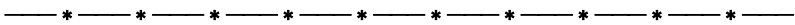


<b>Data</b>	2026-15
監督	ジョン・M・チュウ
原作	グレゴリー・マグワイア『ウィキッド 誰も知らない、もう一つのオズの物語』（早川書房刊）
出演	シンシア・エリヴォ／アリアナ・グランデ／ジョナサン・ペイリー／イーサン・スレイター／マリッサ・ボーディ／ポーウェン・ヤン／ブロンウィン・ジェームズ／ミシェル・ヨー

## 👁️👁️ みどころ

弁護士業 51 年にもなると、善玉と悪玉の区別はつけやすい。しかし、本作にみるグリンドとエルファバは、どちらが“善い魔女”で、どちらが“悪い魔女”なの？『オズの魔法使い』（39 年）は夢いっぱい楽しいミュージカルだったが、オズを舞台とし、“オズの魔法使い”も登場してくる本作では、なぜ“悪い魔女”となるウィキッドがタイトルに？

当初は“お子ちゃま向けミュージカル”とバカにしていた私は第 1 作の素晴らしさに圧倒されたが、さてその第 2 部（最終章）たる本作の出来は？



### ■□■ 2 部作の後編（最終章）は必見！ ■□■

ジュディ・ガーランド主演の『オズの魔法使い』（39 年）やその主題歌たる「虹の彼方に」のことを私は学生の頃からぼんやり知っていたが、それを正確に知ったのは「映画検定 3 級」を受験するときに『映画検定 公式テキストブック』から学んだ。しかし、その原作がライマン・フランク・ボームの小説『オズの魔法使い』（1900 年）であることまでは知らなかったし、『ウィキッド ふたりの魔女』（24 年）（『シネマ 57』44 頁）が幻想の国オズを舞台とし、“善い魔女”グリンドと“悪い魔女”エルファバの 2 人を主人公にしたミュージカルであることも知らなかった。そのため、“お子ちゃま向けミュージカル”はもう飽きた感を持ちながら、2025 年 3 月に同作を鑑賞した時の感動は大きかった。

そのため、私はその評論で、「迷った挙句に鑑賞！それが大正解！こりゃ大傑作！」、「冒頭の喜びはナニ？緑色の女の子の誕生は？入学式は？」、「エルファバも一緒に入学！隠れた才能は？その発見は？」、「最悪の寮友から親友に！それはなぜ？それが本作のキモ」、「オズの魔法使いの実態は？ヤギの教授の追放は？」、「権力の源泉は？グリムリーとは？壮大な原作にも注目！」の小見出しで詳しく評論を書いた上、星 5 つとした。したがって、そ

の後編（＝最終章）となる本作は必見！

## ■□■グリンドとエルファバ「なぜここまで敵対関係に？」■□■

2026年2/28、イスラエルとアメリカが突如イランを攻撃したことによって、世界は今や大混乱！3/19のトランプ・高市による日米首脳会談は成功裡に終わった（？）が、キリスト教（ユダヤ教）を基盤としたイスラエル、アメリカとイスラム教を基盤としたイランのどちらに正義が？それは中世の十字軍の時代にまで遡り、またトランプの強烈な支持母体の1つである（キリスト教）福音派の教義にまで踏み込まなければわからないことだ。

それと同じように（？）、今、オズの国にあるエメラルドシティでは、一方で“善い魔女”グリンド（アリアナ・グランデ）がマダム・モリブル（ミシェル・ヨー）やオズの魔法使い（ジェフ・ゴールドブラム）の支援の下で、オズの国に活気と癒しをもたらす象徴になっていた。他方で、“悪い魔女”という悪名を着せられ、民衆の敵となったエルファバ（シンシア・エリヴォ）は森の奥でたった一人で暮らしていたが、それは一体なぜ？

本作冒頭、エメラルドシティでは、グリンドとフィエロ（ジョナサン・ベイリー）の結婚式に向けて準備される華やかな姿が描かれ、他方では「黄色いレンガの道」建設のため、言葉を奪われた動物たちが奴隷のように酷使される姿と、動物たちを助けるため孤独な戦い（抵抗）を試みるエルファバの姿が対照的に描かれるので、それに注目！同じ魔法学校で学んだ2人がなぜ今、ここまで対立することになってしまったの？

## ■□■本当の善玉は？本当の悪玉は？■□■

人は見かけによらないもの。そして善き人と悪しき人の判定は容易ではない。弁護士生活を51年もやっていると、そのことがホントに骨身に染みてわかってくるが、私が当初は「お子ちゃまミュージカル！」と馬鹿にしていた本作は、オズの魔法使い、マダム・モリブル、グリンドの婚約者たるフィエロ、さらにはエルファバの妹・ネッサローズ（マリッサ・ボーディ）やその恋人・ボック（イーサン・スレイター）らの物語等を通じて、意外にもトコトン真剣にその点を追及してくので、それに注目！

とりわけ、本作前半のグリンドとのド派手な結婚式に向けて幸せの絶頂にあると思っていたフィエロが、意外にもグリンドではなくエルファバを愛していたこと、そしてそれを命がけで実行しようとする姿にビックリ！もっとも、その前に本作では戦いに疲れたエルファバが、オズの巧妙な説得によって心ならずも敵対関係になる必要などないことに納得し、今にも和解成立に至りそうなストーリーが展開するので、それにも注目！それが目先だけの甘い言葉に過ぎないとエルファバが認識したのは、城の隠し部屋で拷問を受けていた恩師ディラモンド教授を発見したためだ。そこでエルファバは牢に閉じ込められている動物たちを解放したから、さあ大変。グリンドとフィエロの結婚式はハチャメチャになってしまった上、フィエロはグリンドを捨ててエルファバと逃げようとしたからさらに大変だ。これにて一挙に形勢逆転！？そう思ったが、そこでフィエロに裏切られたグリンドが絶望と怒りにまかせて、モリブルに「エルファバの妹、ネッサローズを使えばいい」と伝

えたが、その意味は？その戦略は？

## ■□■ネッサローズとボックの運命は？フィエロの運命は？■□■

2026年2/28に始まったイスラエルとアメリカによるイランへの攻撃によって、ホルムズ海峡を巡る石油輸送が全世界の大問題になっているが、それはもともとイランの核開発を巡る問題から生まれたものだ。つまり、アメリカは北朝鮮の核開発をうまく阻止できなかったことを教訓として、イスラエルと共にイランのそれを絶対に阻止しなければならないと考えたわけだ。核と同じように魔法の力だって、うまく使われれば問題ないが、人を殺すための武器として使われれば大変なことになるのは当然だ。

しかして、“悪い魔女”に仕立て上げられてしまったエルファバは、マンチキン国の総督となっている妹ネッサローズ（マリッサ・ボーディ）に協力を求めたものの、ネッサローズは姉の仲間だと疑われることを恐れ、動物排除の条例に署名するなど強権的な統治を行っていたから、アレレ、アレレ。さらに恋人のボックが自分を捨ててエメラルドシティに行くのを防ぐため、エルファバが持っていた魔導書の力でボックの心をつなぎ止めようとしたものの、呪文が暴走しボックの心臓が止まりかけたから大変。エルファバは彼を救う大魔法をかけたが、その結果、ボックは「プリキ男」に変身してしまうことに……。

他方、グリンドの口から出た「エルファバの妹ネッサローズを使えばいい」との言葉を聞いたモリブルは、グリンドの情報をもとに、お天気魔法で巨大な竜巻を発生させたため、

家の下敷きとなったネッサローズは命を落としてしまうことに……。そこに駆けつけたエルファバとグリンドが取っ組み合いの喧嘩になったのは当然だが、そこでフィエロがグリンドを銃で脅かし、衛兵からエルファバを逃したから、その代償としてフィエロは捕らえられ、ひどい拷問を受けることに。エルファバが必死に呪文を唱えて、フィエロの命はつなぎ止められたものの、その代償としてフィエロは「案山子」に姿を変えてしまうことに。事ほど左様に、魔法の力の使い道は大問題だ。

## ■□■全2部作としたことの功罪は？■□■

本作のパンフレットには、稲垣貴俊氏（ライター・編集者）の「希望の先、反復の果て」というREVIEWがあり、そこでは「過ぎ去った時間、原因と結果、決断と責任、選択と代償、願いと挫折、理想と現実。その残酷な落差を明らかにするため、『ウィキッド』2部作では「反復」がとことん繰り返される。」と書かれている。それを読まなくても、2部作の完結編たる本作に、前作と同じシーン、もしくは同じようなシーンがたくさん登場してくることは誰でも容易にわかる。

そんな視点で本作のパンフレットを読むと、本作のPRODUCTION NOTES Iには、「撮影は『ウィキッド ふたりの魔女』と『ウィキッド 永遠の約束』2作を同時に行っている。したがって、数々の壮観なセットをフル活用できた。」と書かれていたから、なるほど、なるほど。しかし、それならあえて2部作としなくとも、最初から少し長めの全1部にまとめてもいいのでは？私はそう思うのだが、さて？

2026（令和8）年3月24日記